

○令和5年度外部評価における評価委員からの意見・要望に対する佐賀県農業大学校の対応状況について

重点目標	主な意見・要望	令和6年度の対応状況
1 優秀な入学者の確保	【農大情報の発信】 ・佐賀農大が他県の農大にはない充実した施設・機械を装備している恵まれた教育環境であることをHPなどでもっとPRしてはどうか。	○佐賀県農業大学校のHPにYoutube動画をアップしPRを行っている。 現在、Youtubeには、農大の最新施設や機械を活用した実習風景、スポーツ大会など学生活動状況などの動画33本を掲載し、配信している。 (例)・水稻ドローン湛水直播、田植え、稲刈り ・農耕用けん引研修 ・農大RADIO学生紹介
2 高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ・農産加工の学びの後に、DXを活用した販売の情報管理などを学ばせてはどうか。農産物・農産加工品などの輸出までを見据えた販売技術を学ばせていただきたい。 【資格等の取得促進】 ・雇用する側から言うと、農業大学校在学中に農耕用大特免許や農耕用けん引免許など、農業に必要な資格はできるだけ取得させていただきたい。 ・肥料価格高騰や環境負荷低減が叫ばれている中、少しでも過剰な施肥を回避できるよう、「土壌医」の資格を取得させてはどうか。 【教育カリキュラムの検討】 ・資格取得などの表面的な学びだけでなく、作物や家畜などの生理生態をより深く研究できる機会を与えるために、農大の3年次に研究課程を設けてはどうか。	○本校では現在、農産物及び加工品の直売をメインとして、消費者のご意見を賜りつつ、学生のプロジェクト生産改善に活かす取組を行っている。 今後、農家段階でDXをどのように活用できるか検討して参りたい。 なお、マーケティングや輸出については、講義の中で学ばせている。 ○必要な資格の取得については、学生に対し随時、受講を促している。 今後も引き続き、できる限り多く追加して受講するように努めたい。 ○学生に対し受検を促し、今年度は「土壌医検定」を1名受検した。 なお、肥料施用方法や環境に配慮した生産技術については、講義や実習の中で学ばせている。 ○九州の農大で3年次研究課程を設定しているのは、鹿児島県立農大のみである。学生数も年2～3名程度と少ない状況にある。農大卒業後、さらに深く研究を望む学生には、本県の試験研究機関にも研修制度があるので紹介をしたい。 また、大学3年次編入も選択肢の1つとして指導をしている。
3 全ての学生の進路決定	・特になし	○就農予定者には、将来目標を早めに設定すること、就職希望者には、農業法人等先進農家派遣研修や会社説明会の開催を通じて、伴走型で支援を行っている。
4 農業者研修の充実	【ドローン免許取得支援】 ・農耕用大特免許などと同様に、ドローンの免許も一般の農業者が農大で取得できるようにしていただきたい。	○資格取得を希望する学生については、民間の認証機関に委託し、講習会を開催している。一般農業者に対しては、民間の認証機関が数多くある中で、施策との関連や重要性等を踏まえ、今後検討して参りたい。